



長浜市の文化的景観保存活用事業の取り組み

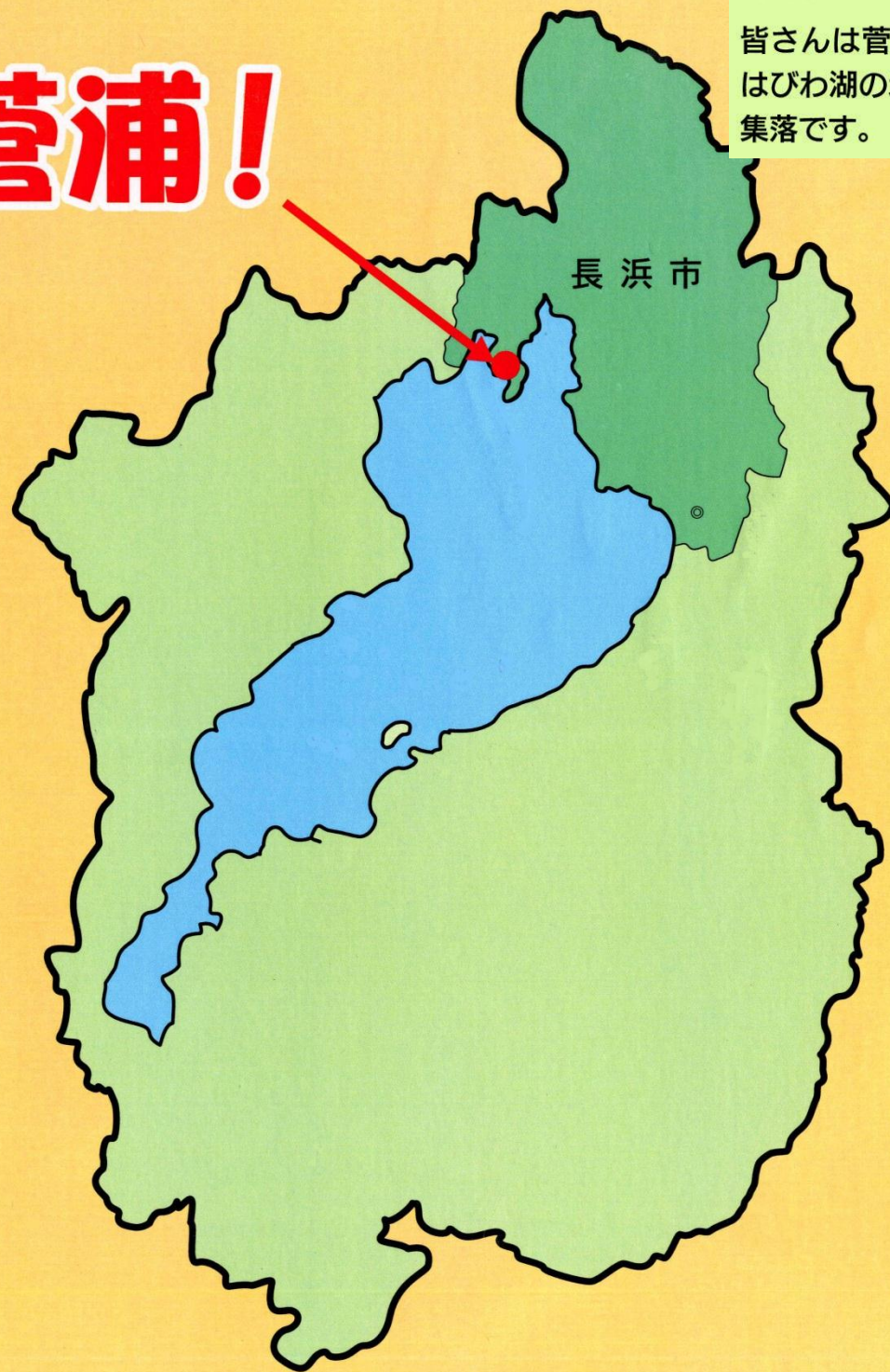
# 菅浦の重要文化的景観 選定を目指して

紙芝居として作成しました。

## ①表紙

長浜市の文化的景観保存活用事業の取り組み  
菅浦の重要文化的景観 選定を目指して

# 菅浦!

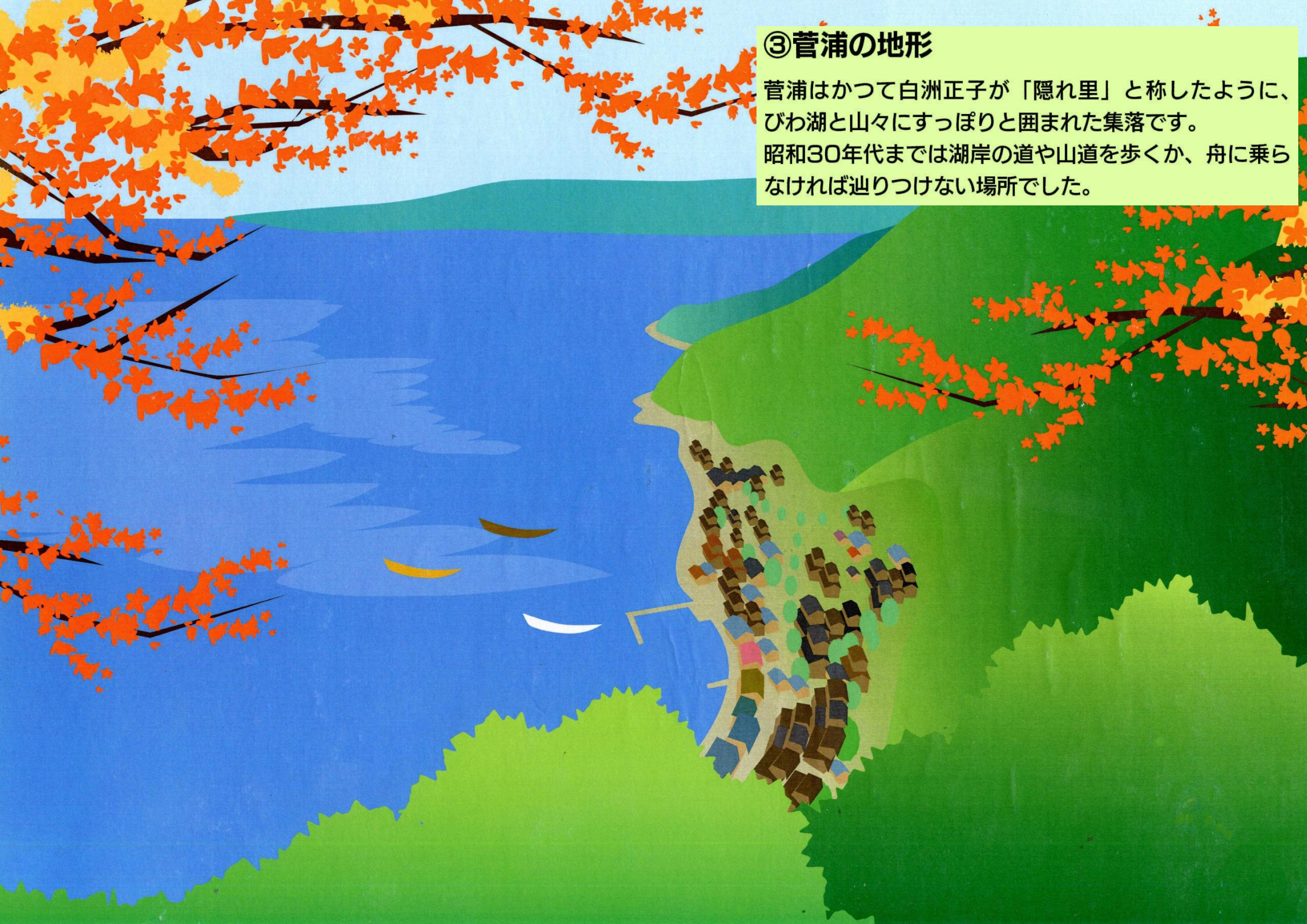


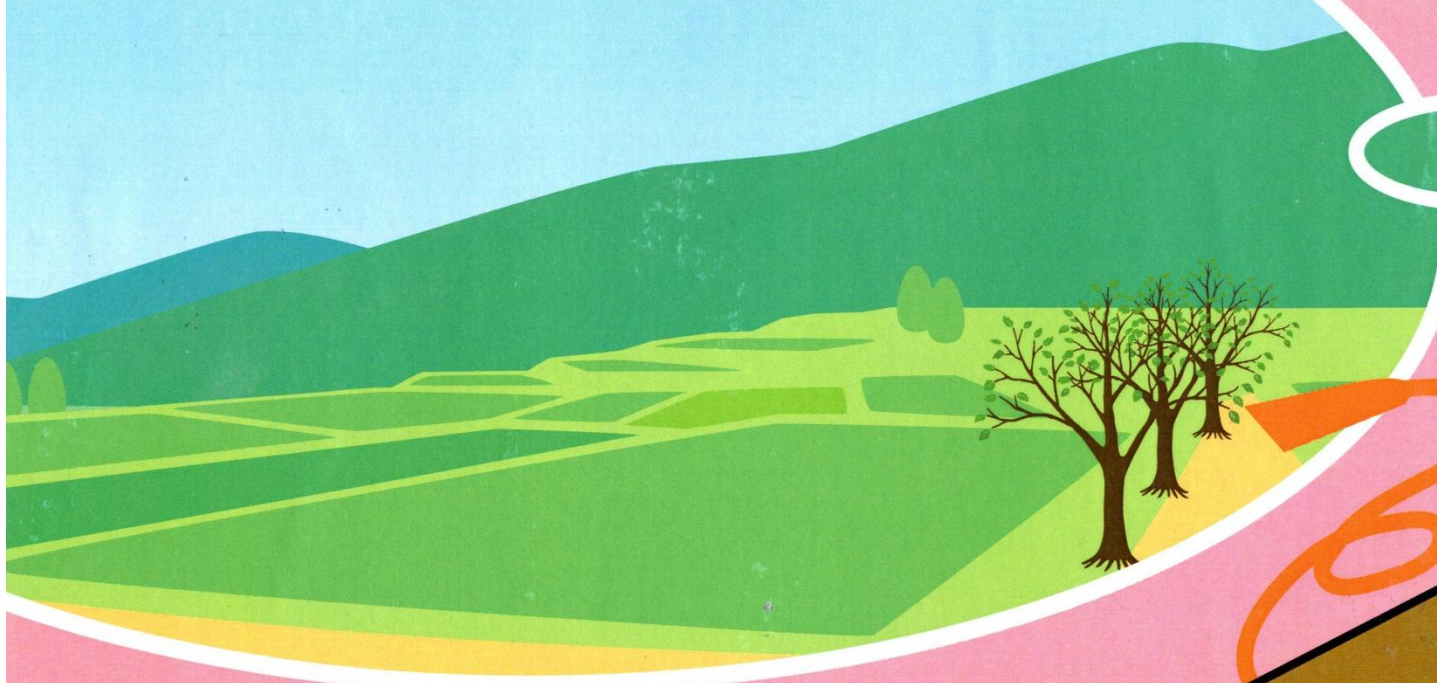
## ②菅浦の位置

皆さんは菅浦がどこにあるかご存知でしょうか。菅浦はびわ湖の北端、葛籠尾崎の先の方にある60軒ほどの集落です。

### ③菅浦の地形

菅浦はかつて白洲正子が「隠れ里」と称したように、びわ湖と山々にすっぽりと囲まれた集落です。昭和30年代までは湖岸の道や山道を歩くか、舟に乗らなければ辿りつけない場所でした。



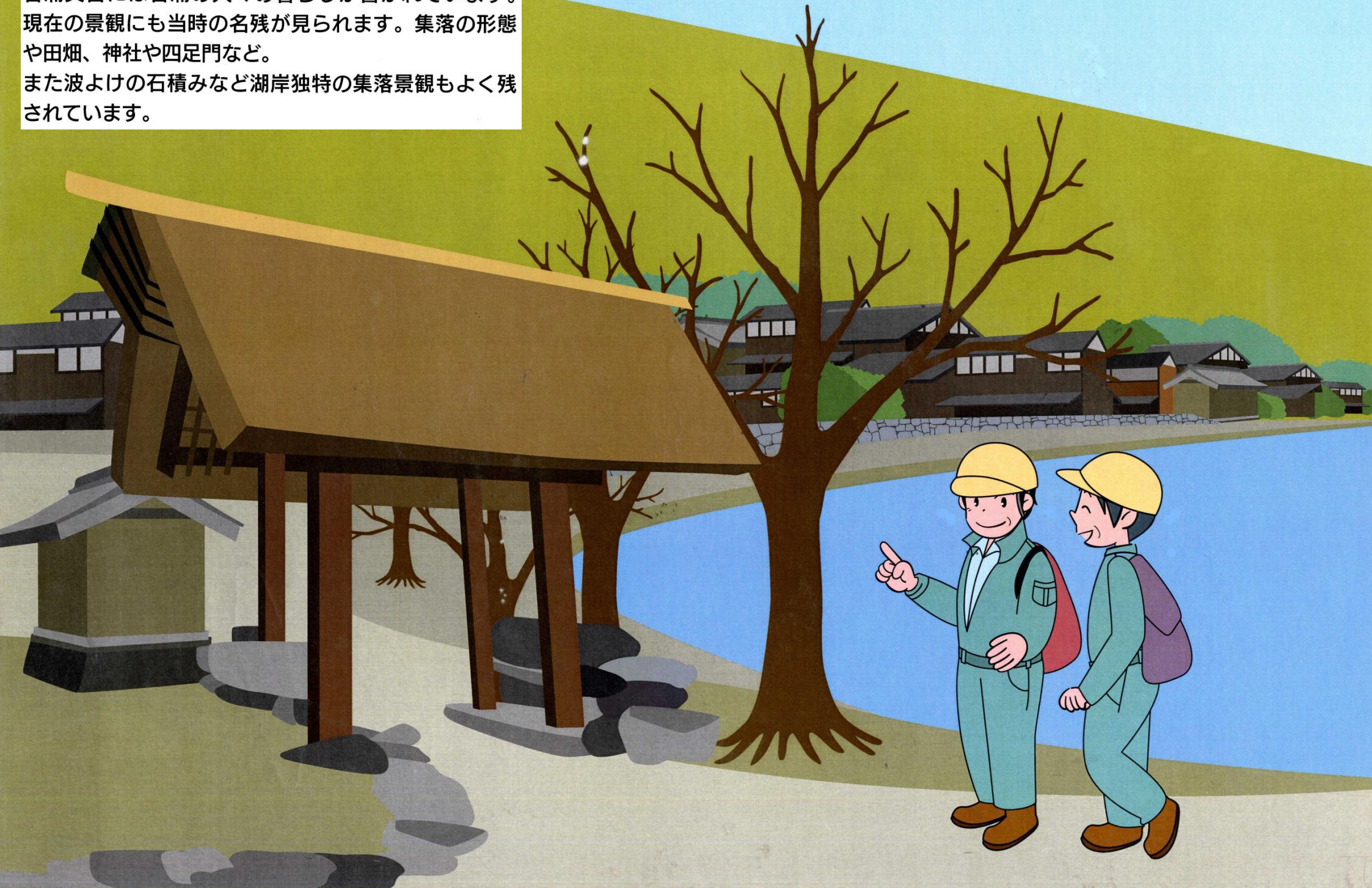


#### ④菅浦文書について

菅浦はまず菅浦文書を抜きに語ることはできません。菅浦文書は鎌倉時代から菅浦の人々が大切に書き溜め、守ってきた一千通以上に上る文書群です。中世の庶民が書いた文書がこれだけたくさん残されていることは、他に類を見ません。まさに菅浦文書は日本史のナゾを解く鍵なのです。

## ⑤菅浦文書と文化的景観

菅浦文書には菅浦の人々の暮らしが書かれています。現在の景観にも当時の名残が見られます。集落の形態や田畑、神社や四足門など。また波よけの石積みなど湖岸独特の集落景観もよく残されています。





## ⑥選定事業に向けて

しかし、こうした貴重な景観が、近年地域の高齢化や過疎化により、維持が難しくなってきました。そこで菅浦の景観を保存していこうと、平成22年から長浜市は菅浦自治会と何度も話し合いをしました。自治会からは「家は建て替えられないのか?」「生活に影響はでるのか?」「四足門はどうなるんや?」「選定範囲は?」「いつから調査をするんや?」など様々な質問が出されました。議論を重ね、平成23年度から調査をすることで了承が得られました。



## ⑦文化的景観の調査

選定に向けて、菅浦の今ある景観がどのようにして出来上がったのか調べる必要があります。建造物の調査はもちろん、古文書や人々の暮らし方、お祭りや産業、山や湖の生態系などあらゆる角度から菅浦を調べました。

## ⑧調査で明らかになったこと

これまで菅浦は漁業や舟運で生計を立ててきたと思われていました。しかし今回の調査で山仕事や田畑、果樹栽培、ヤンマーの部品作りなど様々な仕事をしてきたことがわかってきました。

全く別の菅浦の顔が見えてきたのです。





昔はな、  
山でな…

大変  
やっただけど  
おもろかった  
んやわ…



### ⑨ 守る景観

調査をするにつれて菅浦の守るべき景観も変わってきました。神社や四足門だけでなく、山や石積、田畑やヤンマーの工場群など、菅浦が生き抜くために利用してきた様々な場所に広がっていきました。そして景観を維持してきた生業そのものも大事にしていかなければならないと考えるようになりました。  
このような意識の変化をもたらしたのは、調査に協力してくださった地元の方々の熱意なのです。

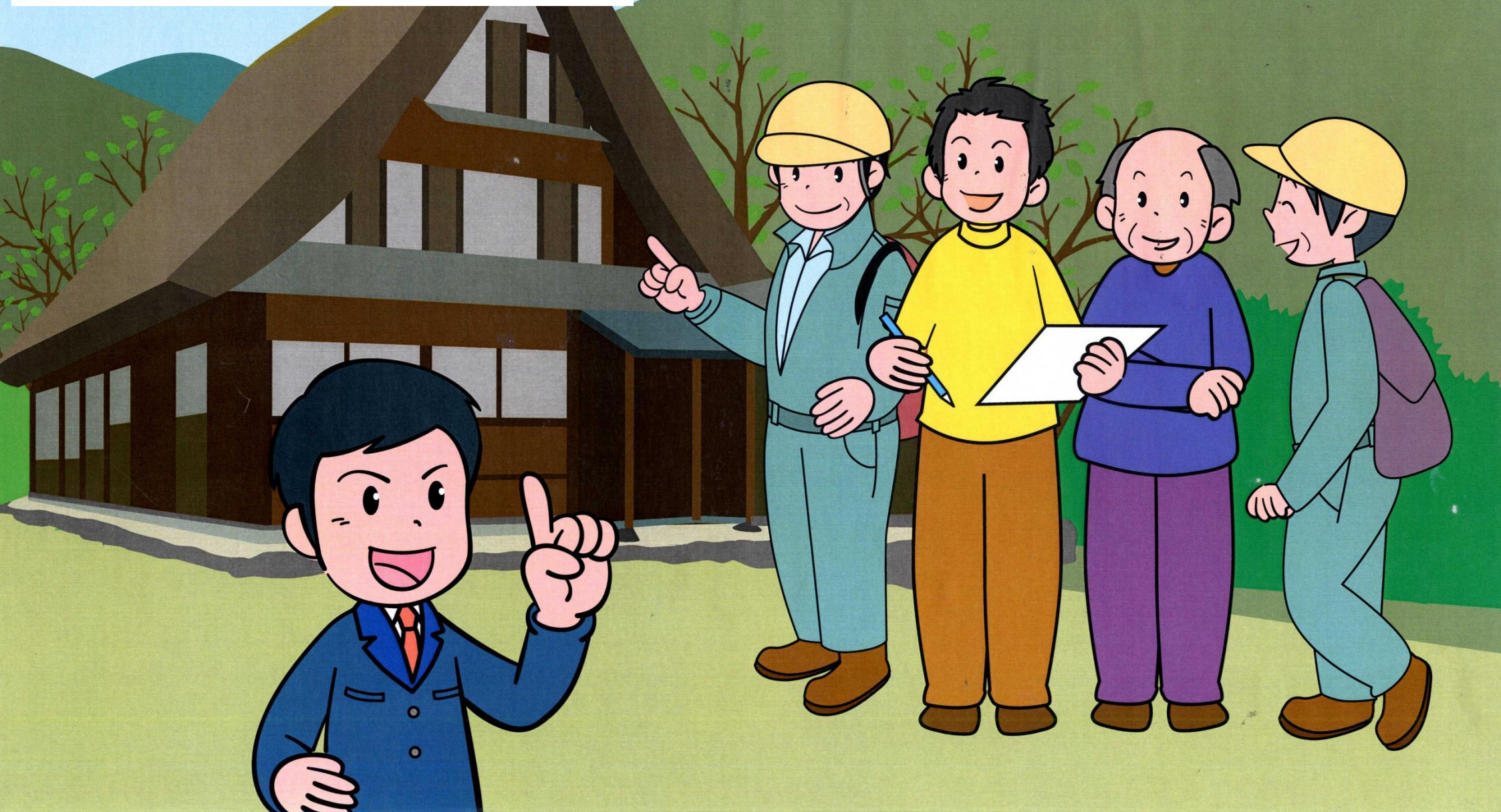
## ⑩啓発事業

菅浦の景観のすばらしさと文化的景観事業を菅浦内外の方々に知ってもらおうと、シンポジウムや写真展の開催、パンフレットの発行、古文書の勉強会をおこないました。少しずつですが、理解が深まってきたかと思えます。



## ⑪選定に向けた地元の取り組み

景観保護の方法や観光客への対応方法などを学ぶために、地元の方々は高島市や富山県相倉などへ熱心に視察をおこないました。選定後も菅浦の景観を守りつつ豊かな暮らしを営むために、現在も模索を続けています。





⑫中世惣村の仕組みを継承しつつ、山や湖の利用と集落の生活が結びついた景観が現在まで脈々と受け継がれてきたことが評価されました。今後も先人が作りあげてきた景観を大事に残していきたいと思います。おしまい、おしまい